



# ニッポンの ドクター和の 臨終図巻

去る3月8日は、世界女性デーでしたね。医療界をみると我が国での女性医師の割合は21%。G7諸国での女性医師の割合は軒並み40%前後なので、圧倒的に不均衡なのがわかります。

では、政治の世界ではどうでしょうか。列国議会同盟（IPU）の調査によれば、世界各国の国会議員の中で女性が占める割合は、平均で25.5%。しかし、日本での比率は9.9%と、193国中166位。これまたG7で断トツの最下位だそうです。この国はオッサンのさばりすぎなのでしょう。ぜひこの人にアドバイスを頂きたかった。

我が国初の女性市長として知られた、元兵庫県芦屋市長の北村春江さんが、3月13日に西宮市内の病院で亡くなりました。享年93。死因は、誤嚥性肺炎との発表です。昨年5月に脳梗塞で倒れて、

## 246 国内初の女性市長 北村春江



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

以上の人に何らかの後遺症が見られます。高齢になればなるほど、回復は難しく、認知症が進行したり、寝たきりになる場合も珍しくありません。嚥下機能も低下すると唾液の垂れ込みによる誤嚥性肺炎のリスクが高まります。

口から食えることが難しくなると、病院から胃ろうを提案されることがままあります。しかし、胃ろうを造っても誤嚥性肺炎を防げず、年約80万人が発症するとされています。発症すると6割

るわけではないことだけは知っておいてください。北村さんが市長1期目だった1995年に阪神・淡路大震災が起きました。北村さんの自宅も全壊。震災当時、市立芦屋病院で看護に当たっていた僕は、その姿を目撃しました。筆筒の下敷きとなつて骨折した夫を病院に託すと、ご自分は着の身着のまま、市役所に段ボールを敷いて寝泊まりをし、救援活動を指揮されていました。

「震災の復興が女性市長に務まるのか」という男性議員の批判には、「市長の仕事に男性も女性も関係がない」と反論。市民の支持を集めて3期まで務め上げたことで、芦屋は災害に強い街として復興しました。以降、関西地域に比較的女性の市長が多いのは、北村さんが道を拓いたからに他なりません。軍国少女として教育を受け、空襲を何度も体験したことから、平和運動にも積極的でした。「戦争に一步でも踏み込んだら、後は泥沼です」。戦争も震災も、両方を経験した女性の言葉は格別の重さを持っていました。

# 平和想う言葉に格別の重み